

## 地域の役に立ちたい 毎日が食財の日

ハクチヨウやガンなど、渡り鳥の飛来地として有名な伊豆沼を有する登米市。その玄関口に、農業生産法人(有)伊豆沼農産(伊藤秀雄代表取締役)が経営する直売所とレストラン「くんべる」があります。

伊豆沼農産は今年6月、地域の食生活に重要な役割を果たしたとして、農林水産省から「総合食料局長賞」を受賞。平成14年には「第6回みやぎものづくり大賞奨励賞」に輝くなど、数々の栄誉を手にしてきた市内の産業をリードする企業です。



伊豆沼農産の直売所には、地元産の野菜や米、果物などのほか、自慢の「伊豆沼ハム」商品がズラリと並んでいます

物、みそ、パン、ハム、ウインナーなどの加工品が店頭と並んでいます。中でも、今年ドイツで開催された「SUF(A)ドイツ国際食肉加工品コンテスト」において、2部門4製品で金賞を獲得したハムや、地元産の赤豚を生産している会員8人が愛情を注いで育てた「伊達の純粋赤豚」の肉をじっくり熟成させ、併設する工場加工した焼豚やみそ漬が伊豆沼農産自慢の商品です。市内外の直売所、小売店、飲食店などへの出荷に加え、平成16年には香港への輸出を開始しています。

また、レストラン「くんべる」は、登米地方に古くから伝わる「はつと」などの郷土料理と、地元食材を使った創作料理を混ぜ合わせた「地域料理」が味わえることも特徴。赤豚を使ったしゃぶしゃぶや特製ハンバーグ、さまざまなたと料理など、メニューはとても豊富です。

そのほか、伊豆沼農産では、ウインナー作りやブルーベリー摘み、工芸教室などの体験教室も行っており、年間を通して市内外から多くの人たちが参加しています。伊藤さんは「直売所とレストランでは、月に一度の食財の日にこだわらず、毎日が食財の日のもりで営業しています。開店以来、地域の人たちと一緒に頑張ってきたので、お客さんからの『おしかったよ』の声掛けが一番ありがたいです」と語っています。

## 商品のほとんどが地元産 産地名を書き入れて表示

城下町の面影を残す中田町石森地区に、野菜や果物、菓子、加工品などの食品を扱うフードショップ及川マーケット(及川晴夫店長)があります。

及川マーケットは及川さん夫妻で経営。主に店頭販売や電話注文による町内家庭への宅配販売をしています。このほか、給食センターや保育所、社会福祉協議会などへ野菜や果物などの納品もしています。

市が地産地消を進めるために、今年度から新たに始めた「地産地消推進店認証制度」の認定を受けており扱っている旬の野菜や果物などのほとんどは地元産。その大部分は中田町産で、ときには生産者から直接仕入れることもあります。定期的に数量が不足するときは、市内の直売所まで足を延ばして確保する地産地消へのこだわりを持っています。

また、仕入れた商品を店頭と並べるときは、商品名や値段のほかに必ず産地名を表示するなど、消費者の皆さんが安心して商品を購入できるように工夫もしています。

## 地元産へのこだわり 地産地消を支える力

及川マーケットのもう一つの特徴は、お客さんからの要望があれば、店で扱っていない商品でも届けるこ



及川さんは仕入れた野菜や果物などを店頭と並べるときに、商品名や値段のほか、必ず産地名を書き入れて表示しています

と。宅配のお客さんの多くは車の運転ができない高齢者なので、扱っていない商品を求められた場合でも、サービスで及川さんが代わりに購入するなどして届けています。「大型店進出の影響で、わたしたちのような小売店の経営は大変厳しい情勢になっています。しかし、地元産の商品を中心に扱うようになってから、お客さんの反応が変わってきました。求めてくれる人がいる限り、地元産の商品にこだわって商品を届けていきたい」。及川さんは登米市の地産地消を支える一人です。

## 登米市の宝、人、物、環境でまちおこし

登米市の宝物の人や物、環境などを掛け合わせ、まちおこしのシステム構築を考えています。農村、農家でしかできないことなどをやっていければ、市のイメージアップにもつながるし、若い人や高齢者の雇用の場も確保でき、まちが活性化されると思います。

### ■(有)伊豆沼農産代表取締役

伊藤 秀雄 さん  
(49歳・迫町大形)



## 安全安心な地域の食材でメニューを

これからも地元の安全安心な食材を使って、このレストランでしか味わえないメニューを考案・提供していきたい。また、直売所の野菜はすべて地元会員が生産したのですが、せっかく合併したので、市内のほかの地域の野菜や果物なども販売したいと考えています。

### ■迫町ふるさと物産館店長

佐藤 信也 さん  
(41歳・本吉町)



### ■及川マーケット店長

及川 晴夫 さん  
(55歳・中田町新橋)

昔と比べるとお客さんは減ってきていますが、地元産の新鮮な野菜や果物などを配達したときに、「ありがとう」と声を掛けられると元気や力が出ます。今後もお客さんに求められれば、できる限りのサービスをする「便利屋」に徹して頑張っていきます。

## 「便利屋」に徹したサービスを続けて

### ■道の駅林林館駅長

熊谷 信 さん  
(57歳・東和町米谷第1区)

林林館に勤める以前は、事務関係の仕事をしており、当初は接客業の難しさを痛感しました。現在はスタッフ全員がお客さんの立場にたって接客しています。今後も安全安心で新鮮な商品を提供していきたい、皆さんから愛される駅を目指して頑張ります。

## 皆さんから愛される駅を目指して



伊豆沼農産では赤豚会員が愛情を注いで育てた「伊達の純粋赤豚」を加工してウインナーを製造しています